

遅い初雪、今冬の雪はどうなる？ ウェザーニュース、降雪傾向(12月～3月)を発表 エルニーニョ現象で暖冬傾向も、関東は黒潮大蛇行で雪が多い可能性 ～全国の雪ピークは12月後半、北陸で大雪、京阪神でも積雪の恐れ～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉県美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、今シーズンの「降雪傾向」を発表しました。今シーズンは、エルニーニョ現象の発生に伴って偏西風が日本付近で北に蛇行し、西・東日本は寒気が流れ込みにくい傾向となります。このため、降雪量は西日本・東海・北陸で“平年並か少ない”、北日本で“平年並”の予想です。関東甲信は“平年並か多い”とみていますが、これは黒潮大蛇行の影響によるものです。黒潮大蛇行が発生すると、日本の南岸を通過する低気圧(南岸低気圧)が首都圏に寒気を引き込みやすいコースをとることが多くなります。

全国的な雪のピークは12月後半で、北陸や北日本の日本海側を中心に大雪となり、瀬戸内や京阪神、濃尾平野でも積雪の可能性もあります。交通機関に影響が出る恐れもあるため、今後の最新情報をご確認ください。

ポイント

- (1) 降雪量: 西日本・東海・北陸で“平年並か少ない”、関東甲信で“平年並か多い”、北日本で“平年並”の予想
- (2) ピーク: 12月後半。北陸や北日本日本海側を中心に大雪、京阪神などでも積雪で交通機関に影響が出る恐れ
- (3) 今冬の降雪量を左右する2つの要因
 - ・エルニーニョ現象による偏西風の蛇行: 西・東日本への寒気の流れ込みが弱まる&南岸低気圧の発生・発達を促進
 - ・黒潮大蛇行: 南岸低気圧が首都圏に寒気を引き込みやすいコースに

本プレスリリースの素材ダウンロードはこちら	「降雪傾向」の一般向けページはこちら	
ウェブ版プレスリリース「降雪傾向」 https://jp.weathernews.com/news/25466/	スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」をダウンロード後「お知らせ」からアクセス	ウェザーニュースウェブサイト「降雪傾向」 https://weathernews.jp/s/topics/201811/200125/

◆今シーズンの降雪傾向(12月～3月)

<降雪量: 全国的に平年並の予想、関東甲信は平年より多い可能性も>

今シーズンの降雪量は、西日本・東海・北陸で“平年並か少ない”、関東甲信(長野県北部を除く)で“平年並か多い”、北日本で“平年並”となる予想です。予想のポイントとなるのは、①エルニーニョ現象による偏西風の蛇行、②黒潮大蛇行です。

①エルニーニョ現象による偏西風の蛇行

現在、2016年の春以来2年ぶりにエルニーニョ現象が発生しており、少なくとも2019年春にかけて継続する予想となっています。

・東日本を中心に暖冬傾向も、油断禁物

エルニーニョ現象が発生すると、東日本を中心に暖冬になる傾向があります。前回(2014年夏～2016年春)発



生した際は規模が大きく、特に 2015/16 年冬は各地のスキー場で雪不足が問題となりました。今シーズンは前回ほどの規模・影響にはならず、気温傾向としては前々回(2009 年夏～2010 年春)に近いと予想しています。

2009/10 年冬は、全国的に平均気温が高かったものの、度々寒気が流れ込み、日本海側を中心に大雪に見舞われた日もありました。今シーズンもエルニーニョ現象で暖冬傾向とはいえ、一時的に強い寒気が流れ込むタイミングがあります。シーズン中、寒気が強弱を繰り返し、気温の変動が大きくなる予想です。

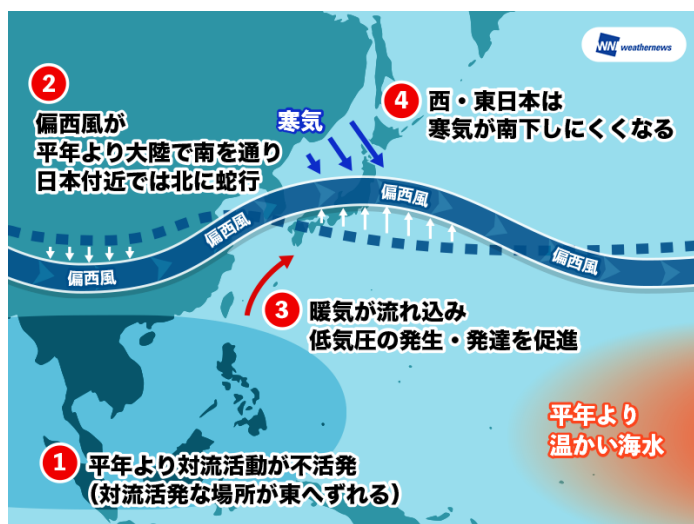
・偏西風の蛇行が南岸低気圧の発生・発達を促進

エルニーニョ現象が発生すると、偏西風が日本付近で北に蛇行し、西・東日本への寒気の流れ込みが弱まります。加えて、太平洋側には南から暖気が流れ込みやすくなるため、西日本・東海・北陸では、降雪量が“平年並か少ない”とみています。一方、北日本は平年並に寒気が流れ込み、降雪量も“平年並”となる予想です。

関東の大雪のほとんどが南岸低気圧によるものですが、南からの暖気の流れ込みは、南岸低気圧の発生・発達を促進します。このため、関東甲信は雪の降る可能性が高まります。

※参考:エルニーニョ現象時の海洋・大気の特徴と日本付近への影響

- (1)エルニーニョ現象が発生すると、積乱雲が盛んに発生するエリアが東へずれて、ベンガル湾からフィリピン付近の対流活動が平年よりも不活発となる
- (2)(1)により、偏西風が大陸上空では平年よりも南を通り、日本付近では北に蛇行する
- (3)日本付近に南から暖気が流れ込み、低気圧の発生・発達を促進する
→南岸低気圧の発生数が増加
- (4)西・東日本は平年よりも寒気の流れ込みが弱まる



②黒潮大蛇行: 関東平野部で積雪リスク高、南岸低気圧が寒気を引き込むコースに

昨年から東日本の南海上で黒潮大蛇行が続いており、12 月いっぱい続く予想されています。1 月以降も続いた場合、南岸低気圧が首都圏に寒気を引き込みやすいコースをとることが多くなります。

黒潮大蛇行が発生した 2017/18 年冬は、1 月 22 日～23 日未明に通過した南岸低気圧の影響で、東京では 4 年ぶりに 20cm を超える積雪を観測し、関東を中心に大雪となりました。

関東甲信は、南岸低気圧の増加とコースの特徴から降雪量が多くなる可能性があります。気温が平年並か高くなることを考慮すると、降雪量は“平年並か多い”と予想しています。特に積雪リスクが高まるのは 1 月下旬～2 月の予想です。

<雪のピーク: 12 月後半は大雪の恐れ、交通機関への影響に注意>

全国的な雪のピークは、12 月後半です。12 月後半は強い寒気が南下し、北陸や北日本の日本海側では大雪に注意が必要となります。また、瀬戸内や京阪神、濃尾平野でも積雪の可能性もあります。交通機関に大きな影響が出る恐れもあるため、今後の最新情報をご確認ください。

◆エリアごとの降雪傾向

エリア	シーズン 本格化 時期	降雪の ピーク 時期	降雪量	降雪傾向
北海道	11月下旬	12月後半	平年並	<p>◇12月後半は大雪・暴風雪の恐れ、交通機関に影響も</p> <p>今シーズンは初雪の便りが遅れていましたが、今月14日に稚内・旭川・網走、19日に帯広、20日未明に札幌で初雪が観測されました。稚内・札幌では観測史上最も遅い記録です(札幌は1890年とタイ記録)。</p> <p><日本海側></p> <p>12月～1月前半は、低気圧や寒気の影響で雪の降る日が多くなります。特に、12月後半は強い寒気が南下して、大雪や暴風雪となる時期があり、積雪が増加する予想です。道内でのスキー・スノボ旅行を計画される際は、安全のために最新の気象情報をご確認ください。</p> <p>1月後半以降は、冬型の気圧配置が長続きせず、強い寒気の流れ込みは断続的となり、積雪が大きく増えることはなさそうです。</p> <p><太平洋側></p> <p>12月末～3月中旬にかけて、低気圧が通過するタイミングで断続的に雪が降る予想です。</p> <p>3月下旬になると、寒気の流れ込みが弱まり、積雪も減っていく見込みです。</p>
東北	12月上旬	12月後半	平年並	<p>◇12月後半は日本海側で大雪の恐れ、交通機関に影響も</p> <p><日本海側></p> <p>12月～1月前半は、低気圧や寒気の影響で雪の降る日が多くなります。特に、12月後半は強い寒気が南下して大雪となる時期があり、積雪が増加する予想です。交通機関に大きな影響が出る恐れもあるため、今後の最新情報をご確認ください。</p> <p>1月後半以降は、冬型の気圧配置が長続きせず、強い寒気の流れ込みは断続的となり、積雪が大きく増えることはなさそうです。</p> <p><太平洋側></p> <p>12月末～3月中旬にかけて、低気圧が通過するタイミングで断続的に雪が降る予想です。</p> <p>3月下旬になると、寒気の流れ込みが弱まり、雪どけが進みそうです。</p>

<p>関東・甲信南部(山梨県・長野県中南部)</p>	<p>1月下旬</p>	<p>1月下旬～2月</p>	<p>平年並が多い</p>	<p>◇1月下旬以降、関東平野部で積雪リスク高まる</p> <p>12月後半は、強い寒気が流れ込み、北関東の山間部では雪の降る日が多く、積雪が増加しそうです。</p> <p>1月後半以降は、寒気が強弱を繰り返し、山間部の積雪も増減を繰り返す予想です。</p> <p>南岸低気圧の増加とコースの特徴から、1月下旬～3月前半は平野部でも何度か雪の降る日があります。特に、1月下旬～2月は内陸部を中心に、都心でも積雪リスクが高まります。ただ、南岸低気圧は、そのコースと発達具合が雨か雪かを大きく左右するため、雪予報が発表された際は、最新情報をこまめにご確認ください。</p> <p>3月下旬になると、寒気の流れ込みが弱まり、山間部の雪どけが進みそうです。</p>
<p>北陸・東海・甲信北部(長野県北部)</p>	<p>12月中旬</p>	<p>12月後半</p>	<p>平年並が少ない</p>	<p>◇12月後半は北陸で大雪の恐れ、東海西部の平野部でも積雪の可能性</p> <p>12月中旬～1月前半は低気圧や寒気の影響で、北陸・岐阜県飛騨地方・長野県北部では雪の降る日が多くなります。特に、12月後半は強い寒気が南下して大雪となる時期があり、積雪が増加する予想です。東海西部の平野部でも積雪の可能性があり、交通機関に影響が出る可能性があります。今後の最新情報をご確認ください。</p> <p>1月後半以降は、冬型の気圧配置が長続きせず、強い寒気の流れ込みは断続的となり、積雪が大きく増えることはなさそうです。</p> <p>3月下旬になると、寒気の流れ込みが次第に弱まり、雪どけが進みそうです。</p>
<p>近畿・中国・四国・九州</p>	<p>12月後半</p>	<p>12月後半</p>	<p>平年並が少ない</p>	<p>◇12月後半は瀬戸内・京阪神でも積雪の可能性</p> <p>12月後半～1月前半は、低気圧や寒気の影響で、山間部を中心に雪の降る日が多くなります。特に、12月後半は強い寒気が南下して、積雪が増加する可能性があります。この時期には、平野部でも積雪リスクが高まります(九州は北部中心)。</p> <p>1月後半以降は、冬の気圧配置が長続きせず、大陸から寒気が流れ込んできても、西日本方面への流れ込みは弱いとみています。このため、日本海側における雪の降る日は平年と比べて少ない予想です。</p> <p>3月中旬以降は、大陸からの寒気の流れ込みが弱まり、春めいてくる見込みです。</p>

◆今シーズンの降雪傾向について

当社では、日々、長期気象予測サービスの実用化に向けて取り組みをおこなっていますが、現在の気象予測の技術水準では、予測精度の誤差が大きくなる場合があります。今回の降雪傾向発表にあたり、複数の気象機関や長期予報の有識者からの見通しを元に、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報につきましては、発表日(11月20日)における最新の見解になります。

※平年:気温や降雪量の平年は1981年～2010年の過去30年間の平均